概要版

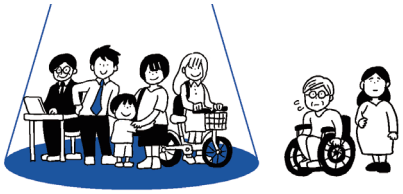
《東京大学 PHED SIG-EP》

災害等の緊急時対応に関するスタンダード

障害に関する災害等緊急時対応スタンダードの位置付け

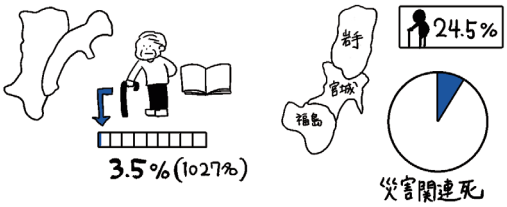
背 景

気象災害や地象災害などの自然災害が多く発生することに加えて、人為的な災害や事故、更には飛来してくる可能性があるミサイルに対しても、防災や減災の準備が求められている。
また大規模災害では、公的な支援等の公助は機能しなく、何より自助が大切となるが、社会的弱者の災害対応は、一部を除き進んでいるとは言い難く、そうした中で障害者差別解消法が施行され（2016）、また今後改正される予定である（2024）。
以上から、国内の多くの自治体、企業、また教育機関において、災害を想定した事業継続計画や、避難訓練・防災訓練が行われています。



しかし課題も

人々の高齢化、在留外国人・インバウンドが増加し、災害の影響を受けやすい地域とそうでない地域や、社会的弱者と呼ばれる人々とそうでない人々の災害時の格差に関心が向けられている。
また、多くの人々の命や安全を確保しようと防災や減災対策を加速させるほど、災害時要支援者への配慮した対策が、後回し、または見過ごされてきた。



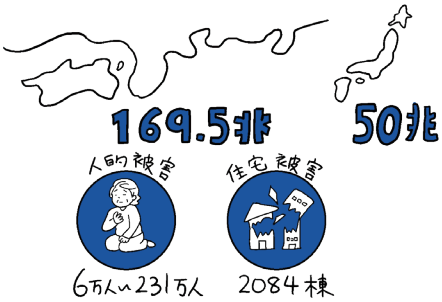
東日本大震災では

未曾有の被害をもたらしたこの大震災では、宮城県沿岸13自治体で障害者手帳保有者の**3.5%**にあたる**1027名**が亡くなった。（これは、死亡率が住民全体の2.5倍にあたる）
岩手・宮城・福島の3県の市町村では、災害関連死と認定された人に占める障害者（手帳所有者）の割合は**24.5%**であった。
この大震災をはじめ、障害者の災害時死亡率が、障害のない人々に比べ非常に高いというエビデンスが積み上げられている。

今後予測される災害

南海トラフでの巨大地震の予測では、資産等被害総額は**169.5兆円**、全国における経済活動への影響は、少なくても**50兆円**を超える。
また人的な被害約**6万人から約231万人**、住宅被害（全壊）**2084棟**にも。

➡ **防災対策や早めの避難により、20%から45%被害を低減させることが可能**



東京大学 PHED における SIG-EP

障害と高等教育に関するプラットフォーム形成事業PHEDの活動

障害と高等教育に関するプラットフォーム形成事業PHED（Platform of Higher Education and Disability：フェッド）は、2017年から東京大学が取り組んでいるプロジェクト。このプロジェクトにおいて、テーマ別専門部会（SIG：シグ）により、「支援の質のものさし」となる障害学生支援のスタンダードを策定。これにより、障害のある大学生がどの高等教育機関でも質の高い配慮・支援が受けられることを目指す。

災害等の緊急時対応（EP）の活動

災害等の上記で述べた問題に取り組むべく、障害者を中心とした災害等の緊急時対応に関するスタンダード（**Quality Indicator**）を作成。
４つのフェーズにおける、大学や教職員、そして障害学生本人の行動視点を整理。様々な組織が、障害者に対する災害時対応を考える、または計画する前に、抑えておくべきポイントや、実際の防災・減災、災害発生時の対応やその後を考えるための有益な情報を提供。

スタンダードの使い方

障害者を中心とした「災害等の緊急時対応についてスタンダード（Quality Indicator）」は、一般的な大学規模、障害学生を（あるいは障害のある教職員を含めて）想定しているが、加えて、障害者以外の災害時の要配慮者／避難行動要支援者についても活用できることを意識して作成している。また作成の上で、4つのフェーズと3つの行動視点を想定する。

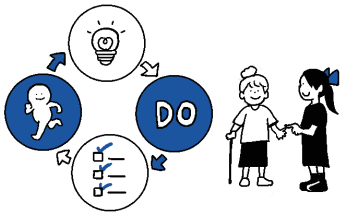
東京 PHED の HP

この QI の対象

一般的な規模の大学、障害学生、障害のある教職員を対象
障害者以外の災害時要配慮者／避難行動要支援者

3つの行動視点

① 大学や雇用者側として、大枠の行動計画や制度設計をするなどシステマティックな対応
② 災害発生時に障害のある人の側にいた際の対応
③ 障害者自身が何をしておくべきか



4つのフェーズ

緊急時対応を想定した準備・対応のタイムラインに応じて、

- **フェーズ0（PHASE 0）：事前の情報収集**
- **フェーズ1（PHASE 1）：災害発生前**
- **フェーズ2（PHASE 2）：災害発生時・直後**
- **フェーズ3（PHASE 3）：避難生活から復旧・回復へ**

災害準備・対応の PHASE

各フェーズにおいて、大学全体、障害学生支援担当・担当部署、障害学生本人それぞれの立場からどのように行動すべきかを行動の視点としてまとめています。災害対応を行った場合は、フェーズ3までの結果を受けてフェーズ0へ移行し、各フェーズの改善を行います。

	フェーズ PHASE 0 事前の情報収集	フェーズ PHASE 1 災害発生前	フェーズ PHASE 2 災害発生時・直後	フェーズ PHASE 3 避難生活から復旧・回復へ
行動の視点	共通	大学全体 教職員※ 障害学生本人	大学全体 教職員※ 障害学生本人	大学全体 教職員※ 障害学生本人

※教職員：障害学生支援担当部署・担当者

災害対応を行った場合：PHASE 3 から PHASE 0 へ
【PHASE 3】の結果を受けて次のサイクルへ

東京大学 PHED SIG-EP メンバー紹介

※[ ]内は所属先

佐藤 剛介
[久留米大学]

森脇 愛子
[青山学院大学]

酒井 春奈
[立命館大学]

竹田 周平
[福井工業大学]